

1. 指定管理者名	公益財団法人多治見市文化振興事業団
2. 指定期間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日
3. 業務の範囲	(1) 図書館法第3条各号に規定する事項に関すること。 (2) 図書館の施設及び設備の維持管理に関すること。 (3) 市史販売等に係る料金の徴収に関すること。 (4) 読書の普及活動及び読書団体の支援に関すること。 (5) 図書館法第2条に掲げる目的のために必要な事業の運営に関すること。

4. 採点表											
評価項目		細目		配点	採点基準		実績(パーセントを求める場合は、小数点第1位を四捨五入)		分析、評価、指示等		得点
1	運営・利用状況 (40点)	(1)利用状況(0点)	①施設の利用率(利用時間/日数×営業時間)	-	平均値比 105%以上:5点、105%未満～95%:4点 95%未満～85%:3点、85%未満:2～0点	平均値比とは、当該評価対象年度の利用率を次に掲げる値で割って求めた率をいう。(図書館においては利用冊数とする) ①指定管理期間1年目 前指定管理期間における利用率の平均値 ②2年目以降 指定期間における当該評価年の前の年の利用率の平均値(例:4年目の場合は、1～3年目の平均利用率) ③新規施設の場合又は施設内容の大幅変更等により①、②によることが不適当であると判断される場合 他の類似施設における利用率実績に所要の調整をして算出した値	-	図書利用冊数 予約貸出等 8,321冊(参考 R3・R4の平均 87,999冊) 令和5年度は、当施設を含む笠原中央公民館の大規模改修により休館。館内に立ち入ることができなかったが、インターネット予約のみ受け付け、館の通用口で本の受け渡しを行う対応でサービスを継続した。	-		
			②利用人数	-	平均値比 105%以上:5点、105%未満～95%:4点 95%未満～85%:3点、85%未満:2～0点	平均値比とは、当該評価対象年度の利用人数を次に掲げる値で割って求めた率をいう。(図書館においては貸出人数とする) ①指定管理期間1年目 前指定管理期間における利用人数の平均値 ②2年目以降 指定期間における当該評価年の前の年の利用人数の平均値(例:4年目の場合は、1～3年目の平均利用人数) ③新規施設の場合又は施設内容の大幅変更等により①、②によることが不適当であると判断される場合 他の類似施設における利用人数実績に所要の調整をして算出した値	-	図書貸出人数 予約貸出等 3,060人(参考 R3・R4の平均 16,896人) 令和5年度は、当施設を含む笠原中央公民館の大規模改修により休館。館内に立ち入ることができなかったが、インターネット予約のみ受け付け、館の通用口で本の受け渡しを行う対応でサービスを継続した。	-		
		(2)市の事業の企画・運営・実施状況(仕様書内)(20点)			内容・事業数等が 仕様書以上:20～16点 仕様書に忠実:15～12点 仕様書の一部不実施(軽微):11～9点 仕様書の一部不実施(中程度):8～4点 それ以下:3～0点	年次報告書P387～388 ①読書普及活動 (1)笠原体育館1階競技場前通路で、雑誌最新刊を展示(12回) ②読書団体等支援 (1)ボランティア連携事業 笠原地域子育て支援センターおはなしの会(11回103人)	仕様書以上:13点	①休館中でも雑誌の新刊を手にとることができるよう、体育館通路に新刊雑誌を展示形式で紹介。雑誌が閲覧できることを利用者に周知し、閲覧場所には机や椅子を設置するなど、複合施設の利点を活かして、利用者が少しでも図書資料の活用ができるように取り組んだ。 ②笠原地域子育て支援センターおはなしの会を継続して実施。読み聞かせボランティアの協力のもと、館外その他施設で乳幼児の月齢に合わせた絵本の読み聞かせや手遊び行い、絵本に親しめる機会を提供した。 ③図書館で不要となった本は、小学校のほか他施設でのへ再利用を促し、活用につなげた。	13点		
			(3)自主事業の企画・運営・実施(20点)		内容・事業数等が 仕様書以上:20～16点 仕様書に忠実:15～12点 仕様書の一部不実施(軽微):11～9点 仕様書の一部不実施(中程度):8～4点 それ以下:3～0点	年次報告書 P389 ①読書普及活動 (1)資料展示 一般展示(1回)、児童展示(7回)、絵本展示(1回) (2)笠原小学校司書教諭との図書館交流／除籍本お届け 1回 ②出張講座 (1)笠原中央公民館連携／よんで!つくって!みてみて!わたしのワンピース・絵本読み聞かせ(10人) ③その他 (1)本のリサイクルコーナー設置(6回) (2)障がい者施設への絵本配達サービス(12回180人)	仕様書以上:13点	①館内閲覧ができない中、予約本の受取りの待ち時間を活かしてもらえよう、購入した人気児童書の書影を展示形式で貼り出すことで貸出や予約につなげた。 ②笠原小学校との交流を継続し、児童の読書推進、本の再利用に取り組んだ。 ③公民館の講座に沿った絵本を選書し、図書館職員が読み聞かせを行うなど、事業連携から読書推進活動や図書館利用を促進。公民館とともに出張講座を行い館外への展開も積極的に取り組まれた。 ④コロナ禍での新しいサービスとして始めた障がい者施設への絵本の配達サービスを継続し、工事後の再来館につなげるように取り組んだ。 ⑤改修工事作業を進める中で、館内の書棚の配置をはじめ、所蔵する本1冊1冊を手にとって状態や貸し出し状況を確認し整理を行った。	13点		
	(1)施設管理業務の実施状況(10点)		①清掃	10	①チェック細目の丸数字の各項目を3段階評価する 適正(普通):2点 一部不備あり:1点 不備あり:0点 ②5項目の合計点とする。	年次報告書P376(笠原中央公民館と共通) ①笠原分館として適切に清掃を実施		適正に実施されている。	10点		
			②保守・点検			年次報告書P377(笠原中央公民館と共通) ①笠原分館として設備に不具合があれば速やかに笠原中央公民館と共有し対応。	適正(普通) 2点	適正に実施されている。			
			③保安・警備			年次報告書P378(笠原中央公民館と共通) ①笠原中央公民館・笠原体育館と一体で保安・警備業務を実施。	適正(普通) 2点	適正に実施されている。			
			④小規模修繕			年次報告書P378(笠原中央公民館が一括で対応) ①有償修繕は笠原中央公民館として、11件 総額624,448円	適正(普通) 2点	適正に実施されている。			
			⑤危険箇所の把握(施設の瑕疵)			年次報告書P390 ①館内リニューアルで新しく設置した本棚は、すべて専門の業者により固定し転倒防止を徹底。 ②館内の学習コーナーは死角を作らないよう防犯ミラーを設置。 ③工事の情報を公民館と共有し、利用者の動線の安全確保できない場合や通路が使えない場合には屋外のらせん階段を使用。	適正(普通) 2点	適正に実施されている。			

2	施設管理状況 (25点)	(2)その他管理業務の実施状況(15点)	①文書管理	15	①チェック細目の丸数字の各項目を4段階評価する 期待以上:3点 適正(普通):2点 一部不備あり:1点 不備あり:0点 ②5項目の合計点とする。	年次報告書P390 ①市ファイリングシステムに準じて、文書をキャビネットで保管。 ②年度末の文書の入替は全職員で行い、職員の意識向上と情報共有を図った。	適正(普通) 2点	適正に実施されている。	10点
			②環境への配慮			年次報告書P390 ①不要となった資料はリサイクル本として再活用するなど利用者に還元したり、分館以外の場所での再利用に努めた。 ②劣化・破損などで新たな利用に耐えない資料は、古紙回収で資源として再利用に努めた。	適正(普通) 2点	適正に実施されている。	
			③バリアフリー			年次報告書P390 ①休館中に館内の本棚や閲覧机、展示台のレイアウトを見直し、再開後、車いすやベビーカーでの来館者がスムーズに利用できるよう準備を整えた。	適正(普通) 2点	適正に実施されている。	
			④備品管理			年次報告書P390 ①休館中、館内すべての備品の不具合を確認し、劣化したものは廃棄や入れ替えを行った。	適正(普通) 2点	適正に実施されている。	
			⑤個人情報保護			年次報告書P390 ①個人情報が記載された書類は、使用后速やかにシュレッダーによる処理。 ②利用者との会話では、個人情報が洩れることがないように細心の配慮をした。	適正(普通) 2点	適正に実施されている。	
			⑥事故等への対応	0	事故等への対応は減点対象とする(事故なし及び事故等の対応に不備なし:0点、事故等対応に不備あり:△1点)	事故なし。	事故なし・対応に不備なし 0点	事故なし	0点
3	当該施設の経営状況 (5点)		①事業収支	5	当該年度の収入÷支出が、105%以上:5点、105%未満～100%:4点、100%未満:3点	収入106,425,227円÷支出104,433,566円＝102% (笠原中央公民館、笠原体育館含む)	105%未満～100% 4点	【参考】 ①施設単独の指定管理料11,077千円 ②施設単独の主な収支 (1)収入／雑収入1千円 (2)支出／運営管理費1,940千円円、文化振興事業費28千円	4点
4	より良い施設運営のための取組 (30点)	(1)市民・利用者の声の反映 (15点)	①ニーズの把握・事業への反映	10	期待以上:10～8点 適正(普通):7～5点 不備あり:4～1点	年次報告書P391 ①大規模改修による新たな展示スペースを設置することに伴い、本棚を減らし、雑誌の閲覧コーナーの配置を変えるなどに着手。利用者が使いやすく、解放感のあるレイアウトに見直し。 ②6年度から児童館図書室となることも考慮し、児童書と一般書の配置を見直し、それぞれが使いやすいよう工夫をした。 ③工事期間中は、館内の本や床・備品に埃や粉塵がかからないよう工事関係者と協力して養生・掃除を徹底。 ④工事中につき、公民館窓口で取り次ぎの協力を得て、予約本の受け渡しを継続。また電話での問い合わせを受け、本の置き置きや窓口で実際に手に取ってもらうなど利用者のニーズに合わせて臨機応変に対応。	期待以上 9点	①予約本の貸出のみを継続してきたが、貸出冊数、貸出延べ人数はそれぞれ例年の10分の1と5分の1にのぼり、図書の需要は想定以上に高い。図書が動く以上、利用者のニーズも生まれるため、その対応に適宜応じている。 ②児童館が併設される笠原交流センターにおいて、再開後の図書室が地域住民の期待に副う魅力ある場所になるよう、配置の見直しや蔵書整理に努められた。	9点
		②苦情対応	5	期待以上:5点、適正(普通):4点、不備あり:3～1点 ※苦情なしは5点とする	苦情なし。	苦情なし・期待以上 5点	苦情なし	5点	
		(2)より良い施設運営・事業実施のための提案・姿勢、上記1～3の評価に反映されないその他の成果ポイント(15点)	15	提案、姿勢、その他の成果ポイント(アピール)が 期待以上:15～12点 適正(普通):11～9点 普通未満～物足りない:8～0点	年次報告書P392 ①改修工事後の図書室に向けて、子どもから高齢者までが利用しやすいスペースとなるよう、本棚や机の配置、新調する本棚の効果的な利用提案などの”棚づくり”に積極的に取り組んだ。 ②休館を利用し、すべての本のバーコードや背表紙のラベルの貼り替え、棚板の追加など利用しやすいの向上に取り組んだ。 ③再開後の問い合わせへの迅速な対応や作業の効率化を想定し、閉架書庫内にある備品・道具・本を整理。 ④予約本の受け渡しの待ち時間に、本のリサイクルコーナーや新刊リストが目に入るよう設え、さらなる利用増に努めた。 ⑤カウンターの経年劣化に対して、天板を張り替える修繕を実施。 ⑥工事の影響で利用者が通用口にも入れない場合は、屋外の通用口前に内線電話を設置し、職員が非常階段を使って利用者対応を行った。	期待以上 14点	①工事による棚や蔵書の削減に対しても前向きに捉え、解放感あるスペースづくりと今後の利用者を想定した本の配置に積極的に取り組んでいる。 ②利用者への不便に対して、新刊リストの設置やリサイクルコーナーを設けるなど、読書推進・利用促進に努めた。 ③工事がスムーズに進行でき、かつ図書館業務が継続できるように協力し、事務所の移動などにも取り組んだ。	14点	
5	その他 (減点方式)	(1)報告書類の提出状況	0	提出書類の遅れ・不備に応じて減点対象とする(遅れ・不備内容の程度により△1～△3点) 一部遅れ・不備あり(軽微):△1、一部遅れ・不備あり(中程度):△2、一部遅れ・不備あり(それ以下):△3	不備なし。	遅れ・不備なし 減点なし	不備なし	0点	
		(2)市からの指示等への対応(報告書類の提出以外)等	0	指示への対応等に応じて減点対象とする(対応等の内容により△1～△3点) 指示等なし・対応等が期待どおり:減点なし、対応等が期待以下(軽微):△1、対応等が期待以下(中程度):△2、対応等が期待以下(それ以下):△3	指示等なし。	指示等なし・対応等が期待どおり 減点なし	指示等なし	0点	
合計				100	【4段階評価】 極めて良好 100点満点 良好 100～85点 努力が必要 84～65点 取消し等を検討 64～45点 44点以下	→ 90点満点 90～75点 74～56点 55～37点 36点以下	90点満点		合計78点
								全体的な評価 ①工事で館内が粉塵にまみれるなど蔵書への影響に対して、日々の清掃を継続し、図書の良好なコンディションの維持に努めた。 ②1年間の休館が利用者の図書館離れにつながらないよう、予約本の貸出、館外での読書の啓発など、休館中でも笠原地域の図書館として、必要最低限の事業に取り組んだ。、	極めて良好